【授業科目】在宅看護援助論Ⅰ（制度・方法論）　Home care Nursing　Ⅰ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
多次 淳一郎、春名 誠美、北井 真紀子	２年次 後　期	必　修	２	３０	講　義	あり	巻末掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要 / 本科目では、在宅で暮らす療養者とその家族を支える制度とケアマネジメントについて学ぶ。また、在宅看護で特徴的な援助方法について学ぶ。講義はレジュメを中心に教科書、視聴覚教材も適宜用いる。学生の主体的な学習となるよう、授業内で適宜、小演習を取り入れる。また、一部の講義は在宅看護の実務者をゲストスピーカーとして招聘する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法 / 各回の授業カードで感想・質問を収集し、次回以降の講義時にコメント・回答し、全体で共有する。提出課題については、総評コメントを資料として受講者に配布する。
実務経験に関する授業内容	看護師、保健師の実務経験をもつ教員が、地域・在宅分野の看護実践において基盤となる知識・技術について、在宅療養の実際に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	①　在宅看護の基盤となる制度を説明できる。 ②　在宅ケアマネジメントの目的と方法を説明できる。 ③　在宅看護に特徴的な技術について説明できる。
時間外学習に必要な内容・時間	【課題】 ①在宅で特徴的な看護技術に関連した課題について、グループで発表する。 ②在宅看護に関連した諸制度に関する知識をもとに提示事例に対するケアプランを作成し、その理由を含めレポートにまとめる。 【事前・事後学習】 事前学習：教科書の該当・関連箇所をおよび随時提示する参考図書等を読み、まとめておく（各 30 分） 事後学習：同日の学習内容をふりかえり、整理しておく（各30分）
授業計画	第1回　オリエンテーション、演習説明　【課題①指示】 第2-8回　暮らしを支える基盤となる制度とケアマネジメント 2. 基盤となる制度①「介護保険制度①　居宅サービス」　【課題②指示】 3. 基盤となる制度②「介護保険制度②　施設サービス、地域密着型サービス」 4. 基盤となる制度③「障害福祉サービス等、関連する制度・法律」 5. 基盤となる制度④「訪問看護の制度とサービスの特徴」 6. 在宅ケアマネジメント①「療養の場の移行を支えるケアマネジメント」 7. 在宅ケアマネジメント②「在宅療養を支えるケアマネジメントの仕組みと方法」 8. 在宅ケアマネジメント③「地域ケアマネジメントの実際」(GS)　【課題②提出】 第9-14回　暮らしを支える看護技術(各回、演習含む) 9. 暮らしの場で看護をするための心構え 10. 食事に関するアセスメントと援助の実際（さまざまな食事のありかた、経管栄養法） 11. 在宅中心静脈栄養（ＨＰＮ）を受ける療養者の支援 12. 排泄に関するアセスメントと援助の実際（さまざまな排泄のありかた、膀胱留置カテーテル） 13. ストーマ（人工肛門、人工膀胱）をもつ療養者の支援 14. 呼吸に関するアセスメントと援助の実際（さまざまな呼吸援助のありかた） 15. 在宅酸素療法を行う療養者の支援　まとめ　【課題①提出】	第 1-8 回 多次 第 9-15 回 春名、北井
評価方法 評価基準	課題①（グループ評価・個人評価）30%、課題②（個人評価）20%、試験 50%で総合的に評価する。 ただし授業態度が顕著に良くない（長時間の離席、私語、授業に関係のない作業をする等）場合は最大 10 点分の範囲で減点評価する場合がある。

教科書	・河原加代子, 他著『系統看護学講座　地域・在宅看護論の基盤 地域・在宅看護論1』（第6版1刷）医学書院 ・河原加代子, 他著『系統看護学講座　地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論 2』（第 6 版 1 刷）医学書院	参考書等	講義の中で適宜紹介

学生への助言等	本科目は 3 年次の在宅看護援助論Ⅱ、在宅看護学実習に直結する内容です。在宅での看護を展開する上で基盤となる知識・方法（技術）になるため、常に実習(実践)とのつながりを意識し、積極的に学ばれることを期待します。